媚薬ざ～めん！

「どうだ？　俺のチンポの味は」
「んーっ、んんぅー！」
スポッ
ズプッ
「ってしゃべれないか。
あー、女子学生の口マンコ超気持ちイイ～」

「よしっ、そろそろ出すぞ。俺の特製濃厚ミルクたっぷり飲みな！」
ドタッ
ビクン
ビクビクッ
「んっ…んんぅうううううう！」

「んっん…んぐ…」
とろん…
（よーし、おとなしくなってきたぞ。
ザーメンの媚薬効果が効いてきたみたいだな）

「やだあ…こんなこと駄目なのに、体が疼いて……お、おかしいよ…！あっあぁん！」
ズッ
ズポッ
「素直になれよ。チンポで犯されるの好きなんだろ？」

「あっあぁん！
段々気持ち良くなってきちゃった♥
お願い、もっとズポズポしてぇ♥」
「おらっ、ここがいいんだろ？」
ズッ
ズポッ
「あんっあんっあぁん♥
すごいいいいいいっ！
激しいよぉおおおおお♥」

「うっ、そろそろ出そうだ。
今度は膣にたっぷり出してやる！」
ビクンッ
ビクッ
ビクビクッ
ドピュッ
「あああああああああ！
熱いのがお腹の奥に
いっぱい入ってくるよぉおおおお♥」

「嫌ぁ……！
や、やめてください！」
「気持ちよくしてやるから暴れるなよ。
ほら、これでどうだ？」

「やぁあああ！　あ、熱いよぉ…！
それに…、頭がぼーっとして…
何？　この感じ…！」
「どうした？
俺の股間のモノをじろじろ見て」
「べ、別に見てなんか…」
「おら、こいつが欲しいんだろ？」

「あっ♥　だ、駄目ぇえええ！
んっ、あっあん♥
何これ、気持ち良すぎぃいいい♥」
「どうだ、俺のチンポは？」
「はあっはぁ♥　すごいですぅ！
もっと突いて突いてぇえええええ♥」
ズポッ
ズポッ

「うっ…そろそろイきそうだ。
今度は中に出すぞ！」
ビクビクッ
「あああああああああ！
だ、駄目ぇえええええええ！
赤ちゃん出来ちゃうよぉおおおお！」
ドピュッ
ビクンッ

「ち、痴漢…!?
嫌…、やめてください!
それに何? このヌルヌルしたの…!?」
ヌルッ
「へへっ、これはメスの本能を呼び覚ます魔法の薬さ。どうだ気分は?」
ヌルヌル

「あれ、おかしいな…。
私、こんなことされてるのに
嫌じゃない…！？」
ヌルッ
「へへへ、効き目抜群だな。
よし、もっといいものくれてやるぞ」
ヌル
ヌル

「あっ、熱いものが入ってくるぅ！
こんなところで駄目…！
痴漢さん大胆だよぉ！
あぁん♥」
「そんなこといって
もうビショビショじゃないか。
ほら、ここがいいんだろ？」
ズブッ
ズボッ
「あっあっあぁん♥
私、痴漢されてるのに興奮しちゃってるぅ！
おかしくなっちゃったよぉおおおお♥」

「うっ…、もうイきそうだ。中で出すぞ！」
ビクッ
「駄目だよ、大きな声出ちゃうぅうううう…！あっぁぁあああああああああ♥」
ビクビクッ
ドピュッ
ズピュッ

「急に家に連れ込んで何を…!?
あっ、や、やめてぇ!」
「良い具合のマンコだ。
これならすぐイけそうだぜ」

「おら、中にたっぷり出してやるぜ。おとなしくなりな」
「あっ、い、嫌ぁあああああああああ！」
ビクッ!!
ドピュッ

「あれ…？　な、何よこれぇ。
どうしてこんな気持ち良く…」
とろん…♥
「どうした抵抗しないのか？」
「だ、だってぇ…！
私、犯されてるのに感じちゃってる！？
あっあぁん♥」
ヌプ
ヌプッ

「おら、もっと出すぞ！膣で受け取れぇ！」
「あっあああああああああ！すごい！　いっぱい出てるぅうううう♥妊娠しちゃうよぉおおおおおおお♥」
ドピュッ
ズピュッ

「よお、俺とイイことしようぜ」
「きゃあ！　な、何よあなた！？」
「君がセックスしたそうな顔してたから声かけたんだよ」

「な、何馬鹿な事……きゃあ！
いきなり何するのよ!?
…ってあれ？　何か急に体が疼いて…」
「どうだ、俺のチンポ欲しいだろ？」
どろっ…
「ううっ、どうしちゃったの私？
はあっはあ、おちんちん欲しいよぉ…
お願い。早く入れてぇ♥」

「やっぱり俺としたかったんだな？
…って、もうマンコビショビショじゃないか。
このスケベめ！」
「あんっあんっあん♥
気持ち良すぎぃいいいいい！
もっと突いてぇえええええ！」
ズッ
ズボッ
「どうだ、ここがいいんだろ。
おらっおら！」
「あっあぁあああああん♥
凄すぎぃいいいいいいい！
私、もうイっちゃうよぉおおおおお♥」

「俺もそろそろイくぞ！
どろっどろのザーメンたっぷり射精してやる！」
ビクンッ
ビクビクッ
ズビュッ
ドビュッ
「嫌ぁあああああああああああ！
お腹の奥にビュービュー出てるよぉおおおお！
駄目ぇえええええええ赤ちゃん出来ちゃうぅうううう♥